

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

前 奏

奏楽 五十嵐美代枝姉

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 11:1-2

1. 主のさかえにいりたまひし この日をむかうる そのうれしさ。
2. 主のうたげはいまひらかる われひとこぞりてみまえにいでん。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 罪の告白①

かみ 神よ、わたしを^{あわ}憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去つてください。わたしの^{とが}咎をことごとく洗ひ、つみ 罪から清めてください。わたしは^{とが}咎のうちに^う産み落とされ、^{はは}母がわたしを^み身ごもったときも、わたしは^{つみ}罪のうちにあったのです。わたしを^{あら}洗ってください。ゆき よりも^{しろ}白くなるように。神よ、わたしの^{うち}内に^{きよ}清い心を^{そうぞう}創造し、^{あた}新しく^{たし}確かな^{れい}霊をさずけてください。すく よるこ 救いの喜びを再びわたしに^{あじ}味わわせ、^{じゆう}自由の^{れい}霊によって^{ささ}支えてください。主よ、わたしの^{くちびる}唇を開いてください。この^{ふた}口は、あなたの^{さんび}賛美を歌います。 ^{しゆ}主イエス・キリストの^み御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、^{なにも}何者をも^{かみ}神としてはならない。
2. あなたは自分のために^{きざ}刻んだ^{ぞう}像を造つてはならない。それに^ふひれ伏してはならない。それに^{つか}仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの^{かみ}神、^{しゆ}主の名を、^{とな}みだりに^{しゆ}唱えてはならない。主は、^なみ名を^{とな}みだりに^{もの}唱える者を、^{ばつ}罰しないではおかない。
4. ^{あんそくにち}安息日をおぼえて、これを^{せい}聖とせよ。
5. あなたの^{ちち}父と^{はは}母を^{うやま}敬え。
6. あなたは^{ころ}殺してはならない。
7. あなたは^{かんいん}姦淫してはならない。
8. あなたは^{ぬす}盗んではならない。
9. あなたは^{りんじん}隣人について^{ぎしやう}偽証してはならない。
10. あなたは^{りんじん}隣人の^{いえ}家をむさぼってはならない。^{りんじん}隣人の^{つま}妻、またすべて^{りんじん}隣人の^{もの}ものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 41:1-3

1. 神はわがちから、わがたかきやぐら、くるしめるときの ちかきたすけなり。
2. みことばの水は つかれをいやして、新たなるいのち あたえてつきせじ。
3. 神のみもとべは つねにやすらげく、くるしみ悩みも きえてあとぞなき。

アーメン

共同の祈 禱 祈 禱 書 5 使徒信条

^{てんち}われは^{つく}天地の^{ぬし}造り主、^{ぜん}全能の^{うちち}父なる^{かみ}神を^{しん}信ず。

われは、そのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみをうけ、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる共同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 聖恵会 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ローマ10章8～17節 (新約聖書288頁)

説教・祈祷 「大切な人生を御国のために」 L・スパーリンク宣教師

* 賛美歌 33:1-2

1. 昔主、イエスの 播(ま)きたまいしいとも小さき 生命(いのち)のたね
芽(め)生(ば)え育ちて 地のはてまでその枝を張る 樹(き)とはなりぬ
2. 歴史のながれ 旧(ふる)きものを 返らぬ過去へ 押しやる間(ま)に、
主、イエスの建てし 愛の国は民よりたみへ ひろがりゆく。アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 決心と派遣 11:3

3. 主のこころを こころとなし、みくにを望みてわが世おくらん。

アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：星野房子・藤井牧子執事 2階：那珂信之執事 / ZOOMホスト・録音：番場駿也

次週 受付 1階：加藤良明・若月学執事 2階：藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音：大日南悠

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

聖書箇所：ローマの信徒への手紙10章8-17節

説教題：「大切な人生を御国のために」（上を目指して歩む：後悔のない人生）

説教者：ローレンス・スパーリンク（基督改革派日本伝道会宣教師）

聖書朗読：ローマの信徒への手紙10章8-17節（新共同訳聖書・新約p. 288）

では、何とされているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、／あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによつて始まるのです。

（以上は神様のみことばです。主に感謝します。）

上福岡教会伝道開始60周年をお祝いするとき、やはり伝道メッセージを話そうと思いました。と共に、自分もあと少しで70歳になるので、宣教師としての人生を振り返りながら、お話ししようと考えました。詩篇34篇は 年配の主の民が若い方々にこう言います。「子らよ、わたしに聞き従え。喜びをもって生き、長生きして幸いを見ようと望むものは。」今日もこのようなことをぜひ一緒に考えたいです。

今日のテーマは「大切な人生を御国のために」ですが、副題をつければ、「上を目指して歩もう：後悔のない人生」になるでしょう。「上を目指して歩もう」と聞くと、もしかしたら、有名な歌を思い出すかもしれません。「上を向いて歩こう」ですね。アメリカにもナンバー1ヒットでした。多くの人の心にひびくからです。もう一つ皆がよく知っている歌があります。それは「花は咲く」です。この両方はメロディーが明るく、ハッピーな雰囲気ですが、歌詞はといえば、損失の悲しみを表現しています。いなくなった恋人や知人、家族を悼む中身です。涼しい春の晩を一緒に過ごせた懐かしいあの方が今はなくて、涙がこぼれないように顔を上に向けて歩いていく。あるいは、ヘドロだらけの畑に再び花はいつの間にか咲くだろうか、と。明るい音楽と悲しい言葉。美しくて悲劇的。私にはなんと日本的なものだろうと感じます。幸せは一体何処より、一体いつ現れるかと問います。

皆さんはご自身の人生についてどうお考えでしょうか。表には微笑みがありながら、中には、何と虚しいものばかり、しんどいと感じていないでしょうか。私は一体何者か、どうしてここにいるか、ことがいつ変わるか、何をすべきか、何処へ向かっているか。もちろん、とてもハッピーな時もあります。頑張っていることがうまく行った時に、「ヤッター」という満足感があります。愛があれば何よりも嬉しいです。ハッピーな音楽が流れています！赤ちゃんの笑い声を聞くと不思議な喜びが湧いてきます。しかしながら、傷もついているし、傷をつけることもあります。聖書にあるコヘレトの言葉が響いてきます。「なんとすべてのことがむなしくないか」と。日々の生活の中の幾分か喜び、幾分か我慢で その割合はどうなのでしょうか。私たちもどれだけ涙がこぼれないように顔を上に向けて歩いていくのでしょうか。

でも、私の今日のテーマは「上を向いて歩く」のではなく、「上を目指して歩おう」です。意味があり、満足を味わうことを期待して、人生の本当の目的を肯定的に受け止める。後悔から解放されて、まことに意義があり、豊かな日々を送ることを勧めています。このテーマはコロサイの信徒への手紙3章から来ています。1節を読みます。「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引

かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」今度はこのことが私の人生においてどのようになってきたかをお話しします。同時に、皆様にもこのような人生を発見していただけるようにお勧めしたいです。この人生はチャレンジと苦しみがないわけではありません。いつも楽なものではありません。けれども真の意義があり、大きな報いが伴うものです。これは本日の私の希望と狙いです。

では、私は一体どのようにして日本に派遣される宣教師になったのか。一体どのようにしてここで42年間も滞在することになったのか。ここで話すのは初めてではありませんが、私のライフストーリーを少しだけ分かち合いをさせてください。私に与えられた神様の恵みの証です。もちろん、これはあくまでも一部だけです。この証を、あるいは、その一部をすでに聞いたので、繰り返しになる方もいますが、お許しください。

私が生まれ育ったのはニュージャージー州で、ニューヨークシティの近いところでした。マンハッタンの高層ビルがうちから30kmほど、公害のない日は家からよく見えました。家族はそれほど裕福だったわけではありませんでしたが、親はクリスチャンで教会員でした。私に幼い頃から神様のことと、イエス様を信じることによる救いのことをよく教えてくださいました。晩御飯の食卓に集まり まず感謝の祈りを捧げ、食事が終わると聖書の一章を順次に従って朗読します。寝るときは聖書物語の本を読み聞かされ、就寝にあたっては膝をかがめて神の守りを祈ります。教会に通って礼拝を捧げ、子供は教会学校に参加し、中高生になると信仰問答書を学びます。うちに少し苦しい課題がありました。中には一人兄の大発作転換病でした。幼い時から、激しいけいれんに襲われ、その直前に恐ろしい幻覚をみるのでした。父と母はこれについて多くの思い煩いがある、自分のせいではないかと己を責める思いもありました。それは親らしいことかもしれません。私自身にも自分が悪いことをしたから天罰ではないかと子供なりに考えてしまうこともありました。この中で悩む父はいつの間にかアル中になってしまいました。

こんな中でしたが、私は幼い時からイエス様を知って、私の救い主また主として信じていました。私を愛して、私のために十字架にかかり、死んで、全てご自身に寄り頼む人の救い主となるために死者の中から復活されたことを疑うときがありませんでした。私の救い主です。私はこのお方を信じています。ですから、私にとって一番大事な質問は、「私のためにご自身を捧げて下さった主をどのようにして喜んでいただけるか」でした。もう一度言います。「私のためにご自分を捧げて下さった方をどのようにして喜んでいただけるか。」礼拝に参加することが小さい僕の幸せでした。その「幸せ」はどこかの雲の上にあったのではありません。礼拝を捧げることになりました。皆様はこれについてどのように思ったり感じたりするのでしょうか。礼拝に参加することが喜びではなければ、それはどうしてなのでしょう。気をよくするにはどうしたらよいのでしょうか。礼拝の中で救いの喜びを主の前に進み出る素晴らしさをもっと豊かに表現する礼拝ができないのでしょうか。

とにかく、兄の問題があったためかもしれませんが、私はいわゆる「良い子」となり、親に心配をかけないことに頑張りました。真面目な優等生でした。主に喜んで頂きたい思いは消えません。高校生になったら、キャリアをどうしようと考え始めました。兄のような苦しみを持つ方々の力になりたいと思って精神科医になろうかと考える時もありました。結論から言いますと、人生の中で最も基本的なことがどこにあるか。罪のことで終末がくると全能者の裁きの座の前に引き出されることになっていることの解決というか、これだと信じています。人は誰であれ、結局、最も大切なことは創造主との和解があるかどうか、これよりも大事なことはありません。そして、罪の赦しと新しい命をいただくのはただ救い主イエス・キリストを信じることに寄りかかっていることを信じています。これがなければ、一時的に喜びある日々を味わい、人生を楽しく送ることができるかもしれませんが、これはあくまでもこの世の人生だけの話です。しかしこれが全てではありません。永遠の中でごくわずかな一部分にすぎません。全般的に言えば、科学の世界において神様のことを無視して、あるいは否定していますので、創造主への反逆のことを話題にしません。解決ももちろんありません。

ストレイトに言います。創造主無しの宇宙は無意味です。ある いわゆる偶然によってなってきたものがあるだけです。善もなければ悪も存在しません。あるものがただあるだけです。神様あるいは神々についての

いろいろな戯言があり、いろいろな儀式を行うに伴ってくるご利益があるようなでたらめ話があるかもしれません。しかしお守りとみくじを買いに参拝したり、お祓いをしてもらいます。マジですか？朝登ってくる太陽に両手を上げて「アマテラス万歳」と叫びますか。伊勢神宮に近況を報告するためにお参りしますか。お墓や仏壇はいかがでしょうか。ごめんなさい。これらの物事は多くの皆様にとって大事にされていることを知っています。わかっています。けれども私が話しているのは創造主なる生ける神様です。私たちの肉体と靈魂の造り主です。かの日になれば私たちは皆、このお方のみ前に立たされ、申し述べをしなければならぬお方です。私は大学で心理学を専攻分野にしました。この関係の医学的研究や療法について今でも深い関心があります。人間が味わう苦しみからある程度解放する事に役に立ちます。他のキャリアーに励んでおられることにも賛同します。しかし私自身にとって医学が私の能力を生かす最善の道だとは思えませんでした。

あのような段階に達した皆様はいかがだったでしょうか。どのような選択肢があったでしょうか。あるいは、今はどうでしょうか。受験地獄の激しい戦いと進路の選定、あるいは厳しい就職活動があったことでしょうか。ご自分の人生の目標・目的が今はどうなっているのでしょうか。「人生の成功」の定義は何でしょうか。たとえ、全世界を得ても魂を亡くされたらどういう惨めな結末になるでしょうかとイエス様が指摘します。

私は聖書を読むと、ある時、神様がこの私に語りかけておられるような気がしました。例えば、イエス様が通りかかり、「わたしに従いなさい」とおっしゃると、何もかも捨てて従う弟子たちがいます。本当にあんなに簡単にできるのでしょうか。イエス様に従っていくことこそが最も大事ではないかと思わされます。あるいは、ルカによる福音書10章1-3節前半を読んでみましょう。「主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつものすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして、彼らに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に関心なさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。』」本日もイエス様が私を遣わすとおっしゃっておられるように聞こえてきます。これが私にとっていわゆる神様の召命、任命として受け止めています。私と妻のルースは高校在学中に付き合い始めました。将来について、結婚について、これからの人生についていろいろ話し合う中でプランを打ち立てました。彼女は看護師の学びを終えて就職し、私は神学校に入り、牧師になる準備をやること。卒業が近づく時に海外宣教に関心が湧いてきました。これは私たちの計画ではないので、彼女にためらいが結構ありました。でもとうとう、5年間だけならば、冒険好きだから、その後アメリカに戻ることにしました。それでは5カ年計画が成立しました。そして今はその5カ年計画の42年目にあります！

率直いえば、いつもは楽だったわけではありません、特に妻にとって。自分もやめて帰国しようと思ったことも度々あります。あくまで異国人です。得となる場合もあります。敬愛する同労者や主にある兄弟姉妹も多くいらっしゃいます。日本で家族を作り子育てができたことは良かったです。美しい素晴らしい国です。けれども、今はもともと答えを求めている質問に戻ります。意義ある人生を見出す秘訣は何であるか、ということです。全てはただ虚しいものを追い求めることでしょうか。それとも、本当に生きているのだと、充実感を抱き、自分の人生に意味と目的があることを信じ得るのでしょうか。落ち込みと鬱さえに打ち勝って、納得のいく人生を歩みだすことができるのでしょうか。

私の結論、今日 本当に主張したいことをもう一度言います。虚しい思いと後悔から解放されて、喜びと意味のある命を見出すことは生ける神様を信じて、イエス・キリストを主として認めることに寄りかかっています。また、この救いを他の方々に伝えることに永遠に及ぶ幸いが与えられます。

今日 使徒パウロがローマの教会へ送った手紙の一部を読みました。これらは約2千年前のことばですが、今日にはその当時よりもその意味に衰えることが少しもありません。ここでなされている説教はだいたいこのような箇所を細かく分析し解き明かす内容になっていると思います。私はそうするつもりがありません。今日の私の話は主に自分のストーリー、自分の信仰の証になっています。最も意義ある人生への道を指す役に立つと期待しています。どのように失望や後悔の涙から解放されるか。何が私たちを最も充実した人生へと導くか、自分に納得と満足に導くか。いつまでも涙がこぼれないように顔を上に向けて歩かなければなら

ない運命の奴隷なのか。そうではないとここで宣言します。望みと期待を持つ歩みができるのです。また、他の方をもこのような新しい、豊かな人生に導くこともできるのです。それはイエス様を信じて 完全な救い主として彼に寄り頼むことによっています。そして最も意義ある人生を持つこともできます。それはイエス様によって与えられる命のグッドニュースを分かち合うことにあります。

使徒パウロはこの箇所で自分が抱えている切望を語っています。10章1節にある通りです。「兄弟たち、私は彼らが救われることを心から願い、彼らのために神に祈っています。」パウロにとって大きな悩み事があります。それは、多くの旧約聖書の預言の実現があつて、イエス様の行った奇跡や述べられた教えによって、イエス様こそが約束されたメシアであることを証明されているのに、非常に多くのユダヤ人がイエス様を拒んでいることです。この部分を書くところパウロは、赦しと豊かな命、永遠の幸い、つまり救いがただこのナザレのイエス様への信仰に寄りかかっていることをはっきりと述べています。3回も繰り返しています。口でイエスは主であると認め、心で神がイエス様を死者の中から復活させられたことをただ信じれば救われます。イザヤ書28章16節を引用します。「主を信じる者は、誰も失望することがない」と。そして、ことがはっきりするためにさらにヨエル書から引用します。「主の名を呼び求める者は誰でも救われる」と。

そこでパウロは続けて、質問を次々と記します。これらの質問は私の心に刻まれています。(信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。) 神様が宣教活動に召しておられることを感じた宣教師は誰でもこれらの言葉を暗唱しているでしょう！私自身が与えられた仕事に従事して、イエス様が約束された救い主、道であり、真理であり命であることを述べ、このお方によってしか創造主との和解ができず、赦しと命をいただくことができないと伝える時に、世世に響き渡る声に自分の声を加えているだけです。新しい話ではありません、ただ聞いたことが今までなかったならば です。ですから今日も皆様にもこれを伝えさせていただきます。メシアであるイエス様を救い主として信じて受け入れなさい。聖書のみことばを調べて、このお方の言動を確認して、ご自身が救い主である主張を聞きなさい。その時、聖霊があなたの心の中でこれに納得させていただきます。そうしてなお このお方があなたをご自身の民としてくださるよう呼びかけなさい。そうすればあなたも救われます。これを経験すれば確実に変えられてしまいます。このお方の愛が大洪水のようにあなたの心を潤し、あふれてしまいます。

すでにこのことをちゃんとされた方ならば、パウロの質問にあるチャレンジをもう一度聴きましょう。これが私自身の人生の方向を定めて、イエス・キリストが唯一の救い主であることを日本の友に宣べ伝えるように 献身するよう導きました。もちろん、日本人にだけではありません。今日、この話を聞いてくださる方誰にでも伝えます。簡単なメッセージです。「神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。御子を信じる者はひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」、これなのです。信じる者、誰にでも。あなたは信じますか？これが秘訣です。ご自分の人生がたとえ、虚しい気持ちと後悔でいっぱいであっても です。やり直しはできません。けれども、ここに新しい命の再スタートがあります。辛い涙をただ我慢するものではありません。望みが一体あるだろうかと落ち込むのでもないのです。苦しみや試練があつても、目的と目標と意味のある命が与えられます。これはまた永遠の命です。ただ訳のわからない神体に溶け込んでいくのではないのです。なぜなら、生ける真の神様に愛されているのはこのままのあなただからです。あなたの人生の目的はこのお方を喜びながら仕えることにあります。あなたがこのお方の栄光を見て、あなたの心が癒されます。

聞く耳があるならば受け止めてください。この希望と光と喜びのメッセージを伝えることよりも名誉と充実を感じる仕事がありません。死を恐れることもありません。イエス様がこれを克服してくださいました。想像ができないほど私たちのために準備してくださる将来があります。だからこそ使徒が書きます。「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」ここにこの方が私たちに提供する本当の命があります。

この道を伝える働きにご一緒しませんか。栄えある特権です！

最後にもう一度言います。虚しい思いと後悔から解放されて、喜びと意味のある命を見出すことは生ける神様を信じて、イエス・キリストを主として認めることに寄りかかっています。また、この救いを他の方々に伝えることに永遠に及ぶ幸いが与えられます。

祈祷：生ける全能の主、主イエス・キリストの父なる神様、あなたこそが全てのものの源であり、私たちが絶え間なく見守っておられるお方です。あなたの慈しみと愛によって、あなたに背き、迷い出て行ってしまった罪人の私たちを憐れみ、ご自身へと立ち返る道を、主イエス様によって切り開いてくださいました。感謝いたします。今日こそ、イエス様を主と認め、復活の事実を認め、救い主のお名前を呼び、あなたに寄り頼む信仰を新たにすることができますように、聖霊によって、私たちの内なる人を助けてください。ここに呼び集めて下しましたので、この恵みを示し、心の内に注いでください。使徒パウロが昔、ユダヤ人のほとんどがイエス様に背を向けていたことに悩み悲しみました。今日、私たちも日本のほとんどの方々がイエス様の恵みを知らないで、癒しと救いを受けるために近づこうとしないことを大変悲しく思っています。だからこそお願いします。私たちをイエス様に救いがあることを信じるだけでなく、熱心にこれを伝えることができますようにお助けください。用いて下さい。一人でも多くの同胞に主を信じる信仰へと導くことができますように。イエス様の御名によってお祈りいたします。

アーメン。

おまけに、歌を作詞してみました。
「上を向いて歩こう」の曲に合わせて

上を目指して歩もう。
キリストが備えてくださる
命があるから、恐れず従おう。

主イエスの恵みいつもあるから、
全ての思い煩いから
とかれて、 平安に 人生を送る。

幸せと喜びが
み座より注がれるよ。

上を目指して歩もう。
再びイエスが来るときには
絶えない命が み民に備わる。

幸せと喜びが
み座より注がれるよ。

父、子、み霊のひとりの神の
愛と救いを世の人にも
知らせるみ技に 私も励もう。

私も励もう。
行くよ、主イエス様。
私も、イエス様。